

シリーズ 原発・いのち・みらい その17

原発のない珠洲から 志賀原発廃炉を目ざして

志賀原発運転差し止め訴訟団長 北野 進

二〇〇三年十二月五日、関電、中電、北電の三電力社長が珠洲市役所を訪れ、

貝蔵市長に対し珠洲原発の「凍結」、事実上の撤退を表明した。計画が公になって

二十九日目、水面下の動きまで遡ると三十五年にも及んだ珠洲原発に、ピリオド

が打たれた瞬間である。この間、原発誘致による莫大な経済効果にバラ色の夢を

描き、人生を賭けた多くの人がいた。反対を貫き、誹謗中傷にさらされ、かけが

えない人生を終えていった人もいる。 原発計画がなくなっ

ても、地域の人間関係を修復するには相当の年月を要す

ると私は覚悟していた。この三カ月前、電力撤退間違

もちろん、電力撤退後の珠洲が順風満帆かと言え

ば、決してそうではない。急激な過疎化、高齢化の大

波で、地域が危機的状況にあることは間違いない。I

ターン、Uターンの元気が一筋の望みだが、行政も住

民もさらにパージョンアツプした取り組みが求められ

ている。 私が何より危惧するのは、こ

うした珠洲の転換期にあつて、議会は機能して

いるのか、そして原発問題を通じて芽生えた民主主義



志賀原発を廃炉に! 訴訟原告団によるデモ行進

をもたらししたが、反面、珠洲にとつて有史以来はじめて

の住民参加の政治の実現につながった。 原発撤退後の珠洲は、腫

れ物に触るようになり、市民の融和を求めてきた。反面、

必要な論争まで避け、馴れ合いの地域社会に逆行し

てはまいいか。 象徴的なのが三・一一後の

の原発への向き合い方である。日本中の多くの市民が

洲市民の声が一つに集まれば、志賀原発を廃炉にしたい。い

つまでも原発をタブー視しては、志賀は

去る二月六日には二次提訴として、福島から県内に避

難している五人にも加わった亀田俊英さん(ふく

しま復興共同センター代表委員)は、原発事故

発生から二年たつて、二十年続いた活断層隠し

を、さらに延々と続けるための調査である。裁判態勢

シリーズ 原発・いのち・みらい その18

原発は人を幸せにしない

三・一一集会 東日本大震災・福島原発事故から二年

『東日本大震災・福島原発事故から二年 三・一一集会』が保険医協会も参

加する「原発をなくす石川県連絡会」主催により、

県教育会館ホールで開かれ、四百五十人の参加があ

った。 集会は、大平政樹石川県



3.10集会アピール行進の先頭に立つ大平政樹副会長(前列左から2人目) 3月10日、金沢市香林坊にて

した。これは過去に繰り返

り、長期に渡る避難生活の別居や震災関連死も増え

活で体調を崩したり、家族がっており、一日一日深刻に

なっている現状を報告。農業は土地と人間の共同作業

である。原発をなくす長い闘いの中で、安全な大地を

取り戻していきたいと訴えられた。 新潟大学の立石雅昭名誉

(神田順一)